■山本周五郎 小説家。年齢とともに進境を示す傑作を発表、人気絶大ながら、あらゆる賞を辞退する見識も示した。

やまもとしゅうごろう

日比谷公園・1903＝ 山梨県初狩村(大月市)で、馬喰・繭の仲買商清水逸太郎・とくの長男に生まれる。本名清水三十六。

日露戦争終・1905＝ 2歳：

満鉄発足・1906＝ 3歳：豪雨による山津波で生家壊滅、父母とともに上京、

東京各地を転々とした後、

大逆事件判決1911＝ 8歳：横浜に移って、横浜市西前小学校に転入学、

明治天皇没・1912＝ 9歳：

4年生の時、担任の水野実から小説家になることを勧められて決心、

民本主義・1916＝13歳：

卒業。東京木挽町の山本周五郎商店(きねや質店)の徒弟となり、正則英語学校などに学ぶ。経営者の山本周五郎は人格者で大きな影響を受ける。

原敬首相暗殺1921＝18歳：

関東大震災・1923＝20歳：関東大震災で山本質店が罹災して一時閉鎖となり、文学の新天地を関西に求め地方新聞記者、雑誌記者を体験して、

治安維持法・1925＝22歳：帰京後、(日本魂)編集者になる。

円本時代始・1926＝23歳：この年母が死去。*山本周五郎のペンネームで(芸芸春秋)に投じた「須磨寺附近」で文壇に登場。

共産党事件・1928＝25歳：浦安に移住。(日本魂)を退社、

世界恐慌・1929＝26歳：各誌紙に童話や少女小説を発表。東京市が募集した児童映画脚本が当選。

海軍軍縮条約1930＝27歳：きよいと結婚。神奈川の南腰越に転居。

満州事変・1931＝28歳：長男誕生。馬込に転居して多くの文人を知る。

五一五事件・1932＝29歳：(キング)に初めての大人向け娯楽小説「だだら団兵衛」を発表。

国際連盟脱退1933＝30歳：長女が誕生。前衛的な現代小説「溜息の部屋」「豹」を(アサグラフ)に執筆。

帝人疑獄事件1934＝31歳：父が死去。「家常茶飯」「花咲かぬリラの話」を発表。

芥川直木賞始1935＝32歳：「蕪落し」「風格」「留さんとその女」「お繁」を発表。

二二六事件・1936＝33歳：「正体」「蛮人」を発表。以後、(キング)(講談雑誌)ほか諸誌に、

日中戦争始・1937＝34歳：「愛妻武士道」「画師出世絵形」、

健保+総動員 1938＝35歳：「槍術年代記」「喧嘩主従」「朝顔草紙」、

第二次大戦始1939＝36歳：「本所裏河岸」「金作行状記」など、発表続け、ようやく充実して華開き、

大政翼賛会・1940＝37歳：「土佐太平記」「城中の霜」「三十二刻」「松風の門」「鉞とり剣法」「内蔵允留守」、

日米開戦・1941＝38歳：「鼓くらべ」「笠折半九郎」「落武者日記」「奉公身命」、

..... 1942＝39歳：「肅々十三年」「松の花」「水戸梅譜」「箭竹」を発表、

創価学会検挙1943＝40歳：「殉死」「新潮記」「白石城死守」「薯粥武士」。*「日本婦道記」が直木賞候補になるが直ちに辞退、後すべての文学賞を固辞した。

年金+総武装 1944＝41歳：「糸車」「御馬印拝借」「紅梅月毛」「琴女おぼえ書」「あご」「兵法者」「一人ならじ」を発表。

敗戦・..... 1945＝42歳：妻きよいが死去。

新憲法公布・1946＝43歳：きんと再婚。横浜の本牧に転居。「彩虹」「柳橋物語」「野分」。(新青年)に「寝ぼけ署長」連載開始、

新憲法施行・1947＝44歳：「ひやめし物語」「金五十両」、

極東裁判決・1948＝45歳：「柘榴」「上野介正信」「おしゃべり物語」、旅館の一室を仕事場とするようになり、進境目覚ましい。

三大事件・1949＝46歳：「山女魚」「おたふく」「むかしも今も」「陽気な客」「桑の木物語」、

朝鮮戦争始・1950＝47歳：「いさましい物語」「妹の縁談」「嘘アつかねえ」、

独立回復・1951＝48歳：「湯治」「雨あがる」。代表的長編「山彦乙女」、

マーチン事件・1952＝49歳：「夕霧の中」「四人囃し」「わたくしです物語」「暴風雨の中」「雨の山吹」。画期となる「よじょう」以後、一作ごとに著しい進境を示す。

TV放送始・1953＝50歳：「正雪記」「栄花物語」「貧窮問答」、

自衛隊発足・1954＝51歳：「雪と泥」「みずぐるま」「しじみ河岸」、旅館内の独立家屋に仕事場を移し、「縦ノ木は残った」に着手、

55年体制始・1955＝52歳：「女は同じ物語」「大炊介始末」「夜の辛夷」「かあちゃん」「釣忍」「ほたる放生」「裏の木戸はあいている」「水たたき」「妻の中の女」、

国連加盟・1956＝53歳：「なんの花か薫る」「こんち午の日」「しづやしづ」「並木河岸」。代表的短編「つゆのひぬま」、将監さまの細みち、

なべ底不況・1957＝54歳：「深川安楽亭」「法師川八景」「鶴は帰らぬ」「牛」「花杖記」「屏風はたたまれた」「ちいさこべ」、

インストラマン・1958＝55歳：「橋の下」「あだこ」「ちゃん」「赤ひげ診療譚」「若き日の撰津守」「古今集巻之五」。*5年ごしの代表的長編「縦ノ木は残った」を完成(毎日出版文化賞を辞退)。

美智子妃・1959＝56歳：「五辨の椿」「薊」「畜生谷」「その木戸を通して」「失蝶記」「天地静大」。代表的短編「落葉の隣り」。

安保闘争・1960＝57歳：「霜柱」「燕」。代表的長編「青べか物語」。

タイタイ病始・1961＝58歳：「虚空遍歴」「偷盗」。代表的短編「おさん」(芸芸春秋読者賞を辞退)。この年、生涯一度だけの講演。

全国総合計画1962＝59歳：「饒舌り過ぎる」「十八条乙」「改訂御定法」「季節のない街」、

TV宇宙中継始1963＝60歳：「滝口」。「山本周五郎全集」刊行。(週刊朝日)に「さぶ」を連載。

東京リビック 1964＝61歳：「醜聞」「ひとごころし」。踏み段で転落し、健康が急激に衰える。

いざなぎ景気1966＝63歳：「へちまの木」「あとのない仮名」。*3年打ち込んだ代表的長編「ながい坂」が完結。

美濃部都知事1967＝64歳：肝炎と心臓衰弱のため、仕事場で没した。